

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

2023年11月30日	
所属部局・学年	野生動物研究センター
氏名	西本千夏

1. 派遣国・場所 (〇〇国、〇〇地域)
熊本県宇城市
2. 研究課題名 (〇〇の調査、および〇〇での実験)
動物福祉実習
3. 派遣期間 (本邦出発から帰国まで)
2023年11月24日 ~ 2023年11月27日 (4日間)
4. 主な受入機関及び受入研究者 (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)
熊本サンクチュアリ
5. 所期の目的の遂行状況及び成果 (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)
写真(必ず1枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの)の説明は、個々の写真の直下に入れること。 別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。
飼育下の動物の動物福祉の向上を図る実践的取組としての環境エンリッチメント、採食エンリッチメント、およびこれらの実践と評価のために必要な行動観察や比較認知科学研究の手法について、実習によって習得することを目的とした。
11/24 施設内見学 11/25 チンパンジーの餌やり、ドングリ拾い(採食エンリッチメント)、麻袋による布団づくり(環境エンリッチメント) 11/26 チンパンジーの餌やり(採食エンリッチメント)、ボノボの採食、環境エンリッチメント、認知研究の見学、スナメリ観察 11/27 掃除、帰宅
今回の実習では、チンパンジーおよびボノボのエンリッチメント方法について学ぶことができた。加えて、動物実験を実際に見学することもでき、研究を行う人は対象動物とある程度信頼関係がないと実験を行えないなどと思った。施設以外でも、近くの港でスナメリも目視することができ、充実した実習であった。
チンパンジーの採食エンリッチメントでは、放飼場のあらゆる場所に餌を置いたり、隠したりし採食時間が延びるようにした。人間であれば、取るのに苦労しそうな場所に置いたりしたが、チンパンジーは木の棒を使って器用に取り出しており観察するのが楽しかった。また、自分が隠した餌を見つけてくれるのも嬉しかった。ジュースを与える方法も工夫されており、道具を自分で作らないと飲めないものであった。すべての個体がジュースを飲むことはできていたが、道具の素材や作り方が様々で、作り方が上手な個体や明らかに効率が悪そうな道具を使用する個体を観察することができ、とても興味深かった。環境エンリッチメントでは、チンパンジーが毛布として使用する麻袋を作った。麻袋の使用方も個体によって様々で面白かった。他にも、チンパンジーの研究を実際に見せてもらったが、1人1人の実験時間が短く驚きであった。また、賢い個体には、他の個体で行った実験と違う実験も追加して行っており、全ての個体が対象ではないことにも驚きであった。実験は、1人あるいは親子で行っていた。部屋に呼び込むのは容易そうであったが、帰らせるのは大変そうであった。報酬に満足していない個体はなかなか帰ってくれず、ケージを蹴ったりしていて怖かった。間近で見るチンパンジーの威力はすごく、ケージが壊れそうな勢いで蹴るため壊れて、襲われないか心配であった。平田先生とチンパンジーの信頼関係は厚く、平田先生が平気でケージ内に入り、実験補助を行う姿は衝撃的であった。私は、生きている動物を対象とした研究を行ったことがないため、実際に見学できて大変勉強になった。研究室で黙々と研究を行っているだけじゃ分からない、実験を行うまでの過程(飼育や信頼関係の構築)の重要さを感じることができ良かった。
ボノボでは環境エンリッチメント、採食エンリッチメント方法を学んだ。初めて、ボノボを見たが目が大きく可愛かった。また、チンパンジーと比べ大人しい印象を受けた(1人は除く)。環境エンリッチメントでは、山に木を切りに行き、その木を飼育場に置いた。どの木を切るのか言われるがままに切ったのだが、職員さんの木の種類を見分ける知識の豊富さに驚いた。チンパンジーの飼育場所と違い、コンクリー

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

トできており、なぜ木を入れる必要があったのか理解できた。採食エンリッチメントでは、福袋と呼ばれるフィーダー（ペットボトル、紙袋、段ボール筒）に餌を入れ与えた。フィーダーも様々な場所に置いた。ポノボはチンパンジーと違い、好き嫌いがはっきりしている感じがした。チンパンジーは食べ物があれば、手当たり次第に食べるが、ポノボは好きなもの（果物、ピーナッツ）だけ食べ、食べるものなくなるとしつこく食べる感じであった。ハチミツが好きであるため、野菜や拾ったドングリにかけて与えたがなかなか食べずに残念であった。また、一部の個体は、餌を見つけた場所で食べるのではなくわざわざ私たちが観察している場所まで持ってきて食べており、チンパンジーに比べ親しみ感を持てた。餌の場所を指さして教えると、理解したかのようにその場所に行き、見つけたので驚いた。また、ポノボもチンパンジー同様、力が強いことも学べた。ハンマーを使用して作ったフィーダーを握力だけで破いて中身を取り出したのには驚いた。他にも、ポノボの異常行動を観察することができた。食べたものを吐き戻してまた食べるという行動は、飼育下だとやることがないために起こる行動で見ているとこっちまで吐き気を催した。指を突っ込んで吐いている姿はまるで人間のものであった。この行動は癖となっており、動物福祉のための飼育環境を整えることの難しさを感じた。



チンパンジーの餌



チンパンジーの放飼場に餌置き



切った木を運ぶところ



ドングリ拾い

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)



ボノボのフィーダーづくり



ボノボの飼育場にフィーダー置き

※メンター（PWS プログラム指導教員）が確認済の報告書を【report@pws.wrc.kyoto-u.ac.jp】宛にご提出ください。

6. その他（特記事項など）

本実習は PWS よりご支援いただきました。実習へのご支援感謝いたします。また、実習を受け入れてくださった熊本サンクチュアリの皆様、実習の引率、指導をしてくださった平田先生に深く感謝申し上げます。